

事例10

三井住友建設株式会社

女性労働者の意向を踏まえた業務の変更

勤務時間等の配慮

日頃からのコミュニケーション

取組のPOINT

- 前例にとらわれず、必要なものは取り入れようと、女性用設備や女性用サイズの用具を現場に導入
- 配置転換や現場の朝礼を免除することで、妊娠した女性労働者の負担を減らす配慮
- 女性労働者へ配慮することで本人のモチベーションが上がり、結果的に現場全体に一体感が生まれた

◆ 人事・労務管理担当者

女性活躍推進の職場環境の整備について

女性用設備を導入 「前例にとらわれず、必要な設備を」

3社共同で工事を行っている大規模な現場において、女性が働きやすい環境づくりを目指し、現場に女性用トイレ（女性用と明示、施錠可）を設置するのはもちろんのこと、現場事務所に洗面所や女性用更衣室（簡易ベッドあり）を導入している。また、これまで男性用サイズのみだった安全靴も、小柄な女性労働者のために小さいサイズを用意した。まだ手探りの部分もあるが、前例にとらわれず必要なものを見つけ出し、どんどん取り入れていきたいと考えている。

作業の制限や業務の転換における運営上の課題・問題点

迅速な配置転換、出勤時間の繰り下げで負担減

急な階段や高所など、現場には転倒・転落の危険性があるとして、女性労働者から妊娠の報告を受けると、迅速に現場事務所内業務へ配置転換した。

また、朝礼と朝の体操を免除し（出勤時間を繰り下げ）、連絡事項を週1回の会議で共有。残業を減らし、女性労働者の業務負担を軽減した。忙しい区画と余裕のある区画のバランスを見て、他の職員の配置転換をしたり、業務内容を工夫することで女性労働者が現場から外れた分をフォローした。

母性健康管理の環境整備の効果

女性労働者のモチベーションアップ 現場全体に一体感

多くの人に関わる現場において、何よりも信頼が重要だと考えおり、連絡会議を通して社員同士の結束を固めたり、関係各社との円滑なコミュニケーションを心がけている。

女性や妊産婦の就業制限などの配慮が必要な場面について、直属の上司を含め、周囲に理解を求めている。また、日頃から各所に目を配り、良好な人間関係が築けるよう工夫している。

女性労働者に対し、技術を上げ、立派な戦力になってほしいと願っており、現場のルールは押しつせず、本人の能力発揮をバックアップしている。そのため、仕事においては男女で区別せず、厳しくも温かく部下の仕事ぶりを見守っている。

モノづくりに携わりたい女性労働者の希望をくみながら、所長を中心に女性労働者へ配慮、理解することにより、女性労働者のモチベーションが上がり、結果的に現場に一体感が生まれた。



新名神高速道路
楊梅山高架橋工事
現場所長 梅野 利治さん



管理本部 人事部
ダイバーシティ推進担当 課長
駒ヶ嶺 何千子さん

◆ 女性労働者



土木本部 土木工事管理部
土木管理グループ
坂本 由佳さん

職務内容	大阪で現場監督をしていたときに妊娠が判明。妊娠報告後は現場事務所内へ配置転換された。復帰後は岡山のサテライトオフィスから現場の支援システムの開発、導入補佐を担当。
雇用形態	妊娠前・妊娠中・出産後いずれも正社員
労働時間 ※末子妊娠時	妊娠前 7:30～16:30(残業あり) 妊娠中 8:30～17:30(朝礼免除、残業あり(賄い提供時間まで)) 出産後 8:45～15:45(サテライトオフィスにて短時間勤務制度利用)
お子さんの年齢	1歳8か月(ヒアリング当時)
休業期間	産前:12週間 産後:15か月(有休と併用)

妊娠が分かった時の状況

現場勤務の女性労働者の妊娠 貴重なロールモデルに

大阪に単身赴任していた当時、子を持つことを望んでいたため、数年後に地元の岡山営業所で就業できるか、営業所＝営業拠点という固定観念を取り払い、営業以外の職種で配置は可能かなど上司に相談していた。そのような矢先、妊娠が判明した。想定外のタイミングだったが、大阪での就業継続を希望し、また、土木本部も優秀な人材に働き続けてほしいと考え、調整を進めた。現場勤務の女性労働者の妊娠は社内で貴重なロールモデルとなり、妊娠・出産をしても働き続けられるという働き方の選択肢を後輩に示すことができた。

妊娠をしたことによる勤務や作業内容の変更

事務所内から現場をサポート

妊娠が分かった当初は、体調が落ち着いている間は現場に出ようと考えていたものの、所長の配慮と周囲の説得もあり、現場事務所内へ配置転換された。これまでの現場での経験を活かし、施工計画書など施主への提出書類を作成したり、現場からの問合せに対応するなど、事務所から現場をサポートした。外勤よりも業務量や勤務時間が軽減され、また、人間関係が良好であったため、身体的にも精神的にもストレスなく働けた。

また、自分のタイミングで更衣室で休憩できたり、昼と夜に賄い食が出るなど、現場ならではの環境は、単身赴任をしている身として、ありがたかった。

妊娠・出産を経て働き続けることについて

日頃から周囲と密なコミュニケーションをとり、理解を得る

当現場に赴任してから4か月で妊娠したが、日頃から密なコミュニケーションをとっていたため、周囲の理解や協力を得やすかった。互いを思いやる当現場において産前休業まで勤務し、産後・育児休業を経て、復帰後は、希望どおり地元・岡山営業所のサテライトオフィスにて、短時間勤務制度を利用しながら就業している。

妊娠・出産して職場に復帰するのは、周りの人の理解や協力があってこそであり、良い環境に恵まれ、周りの理解もあったため、妊娠中も働き続けられた。出産を経て職場復帰できたことで周りの協力を得る必要性やコミュニケーションの大切さを感じている。

会社概要

三井住友建設株式会社

所在地：東京都中央区佃2-1-6

業種：一般土木建築工事業ほか

規模：従業員数3,367人(うち女性560人)

※平成29年4月現在 契約社員・パート・派遣社員含む

- 妊娠・出産による退職者割合:0%
- 育児休業取得者割合
(女性):100% (男性):6.4%